

令和6年度病虫害発生予察注意報第6号

令和6年8月2日
愛知県

作物名：水稲（早生及び中生品種）
病虫害名：イネカメムシ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

(1) 7月下旬の巡回調査における本田のすくい取り調査（47 地点 94 ほ場）において、イネカメムシの平均捕獲数が 1.58 頭（平年 0.38 頭、前年 1.36 頭）と、**過去10年間で最も多かった**（図1）。

病虫害発生予察注意報等の防除指導により、出穂期防除が広く実施されており発生は抑えられているものの、一部のほ場で発生が確認されている。

(2) 巡回調査において、県内複数地点で幼虫の発生を確認しており、8月上旬以降に次世代成虫の発生が増えることが予想される。

また、予察灯による調査では、7月上旬頃から複数地点で越冬世代成虫がこれまでに多く多く誘殺されており、**次世代虫の発生も多くなると予想される**（図2、3）。

このため、「**あいちのかおりSBL**」等、今後出穂期に入る作型では特に注意が必要である。

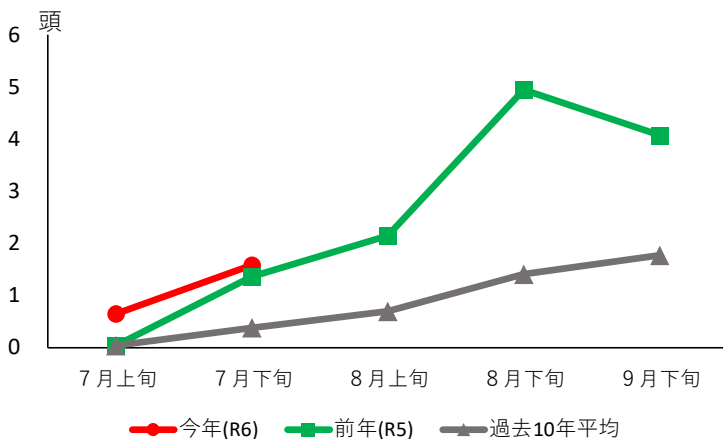
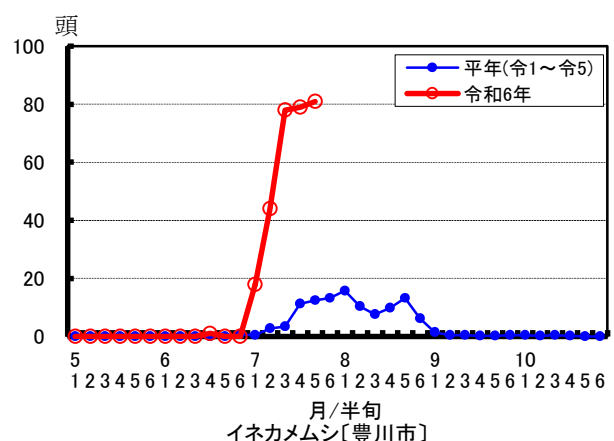
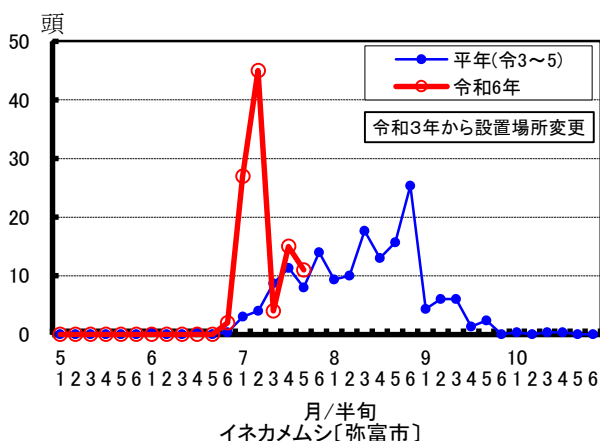


図1 (左上)
イネカメムシの調査時期別の捕獲頭数
(ほ場あたり平均、20回すくい取り調査)

図2 (左下) 及び図3 (右下)
予察灯におけるイネカメムシの誘殺状況
(図2：弥富市、図3：豊川市)



4 防除上注意すべき事項

(1) イネカメムシは、出穂直後から籾を吸汁し不稔籾を生じさせる。減収につながるため、**出穂期に薬剤防除する。**

また、イネカメムシ及び他の斑点米カメムシ類の対策として**出穂期防除の7日から14日後頃（イネカメムシの発生が多い場合は7日から10日後）に2回目の薬剤防除**を実施する（参考）。その後も斑点米カメムシ類の発生が多い場合は必要に応じて追加防除を実施する。

(2) 出穂とは茎から穂の先端の籾が出た状態であり（写真1）、全体の4～5割の茎が出穂した日を出穂期という。ほ場における出穂期の確認は難しいため、栽培管理支援ツール（AgriLook）の活用や、走り穂が見られる頃などを参考に判断する。

(3) イネカメムシに対する薬剤は表1のとおり、水溶剤、液剤、フロアブル剤等が効果的である。

(4) 一部の地域ではエチプロール水和剤（商品名：キラップフロアブル）でイネカメムシに対する感受性が低下している事例が生じていることから、防除薬剤の選定については地域の指導機関等に相談する。



写真1（左）
出穂したイネ
（写真では茎から既に先端の2～3粒が出ている状態）

表1 稲のイネカメムシに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRAC コード
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで	3回以内	4 A
スタークル液剤10			
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	4 C
キラップフロアブル（注）	収穫14日前まで	2回以内	2 B

（注）キラップフロアブルは本県一部地域でイネカメムシに対する感受性低下を確認しているため、**感受性低下を確認している地域では使用を控える。（4（4）参照）**

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

【参考：7月下旬の巡回調査における斑点米カメムシ類の発生量】

7月下旬の巡回調査における本田のすくい取り調査（47 地点 94 ほ場）において、斑点米カメムシ類の平均捕獲数が 3.91 頭（平年 2.43 頭、前年 3.84 頭）と、過去 10 年間で 2 番目に多かった。特にイネカメムシとミナミアオカメムシが多い（表 2）。

また、畦畔雑草のすくい取り調査（44 地点 88 ほ場）においては、斑点米カメムシ類の平均捕獲数が 4.42 頭（平年 5.72 頭、前年 7.09 頭）と、過去 10 年間で 3 番目に少なかった。これはカスミカメ類の数値が大きく下がったためであり、カスミカメ類を除いた種はいずれも多い～やや多い状況である（表 3）。

防除対策は、7月17日発表の令和6年度病害虫発生予察注意報第5号（斑点米カメムシ類）を参照する。

表 2 斑点米カメムシ類の7月下旬本田すくい取り調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

種類	発生量	本年	平年
ホソハリカメムシ	並	0.27	0.29
クモヘリカメムシ	並	0.35	0.31
シラホシカメムシ類	やや多	0.06	0.04
イネカメムシ	多	1.58	0.38
カスミカメ類	並	1.34	1.32
ホソナガカメムシ類	多	0.07	0.03
ミナミアオカメムシ	多	0.23	0.06
合計	やや多	3.91	2.43

（平年：平成26年～令和5年の平均値）

表 3 斑点米カメムシ類の7月下旬畦畔すくい取り調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

種類	発生量	本年	平年
ホソハリカメムシ	やや多	0.64	0.34
クモヘリカメムシ	やや多	0.81	0.27
シラホシカメムシ類	やや多	0.18	0.12
イネカメムシ	多	0.08	0.03
カスミカメ類	やや少	2.41	4.85
ホソナガカメムシ類	やや多	0.22	0.07
ミナミアオカメムシ	やや多	0.09	0.05
合計	やや少	4.42	5.72
うちカスミカメ類以外	やや多	2.01	0.87

（平年：平成26年～令和5年の平均値）

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話:0561-41-9513